

特集2

多芸多才を誇るビジネスの強い味方

オフィスで使う 低価格複合機

文●編集部 (yoshi-u、飯岡真志)

オフィスの新3種の神器といえば、プリンタ、コピー機、FAXだろう。昨今では文書の電子化も求められるようになり、これにスキャナが加えられる。これらの機器は、それぞれはさほどの大きさでなくとも、4つ集まれば大きなスペースとなる。そこで登場したのが複合機だ。

プリンタ、コピー機、FAX、スキャナは、それぞれがその機能の一部を含有する。そのため、これらを1台に

統合すれば機器のコストが抑えられ、かつ省スペースも同時に実現できるわけだ。

従来は、複合機というと家庭向けのインクジェットプリンタや、企業向けのハイエンドコピー機というイメージが強かった。しかし、インクジェット方式はオフィスで使うにはコストや印刷速度、耐久性の面で力不足だし、ハイエンドコピー機は価格の面から導入がためられる。こうしたニーズを捉え、昨今、

各社はスモールオフィス向けの低価格レーザープリンタに注力し始めた。

この特集では、主要4社のレーザープリンタ複合機の機能と特徴を紹介していく。扱う機種は各社のもっともローエンドに位置する機種だが、スモールオフィスでは十二分の機能を持つものばかりだ。省スペースはもちろん、印刷コストや消費電力を削減する機能も搭載されており、導入するだけで無駄な経費を削減できるだろう。

デスクトップで使える小型カラー複合機

エプソン オフィリオ複合機 LP-A500シリーズ



価格●オープンプライス

<http://www.epson.jp/products/offirio/mfp/>



プリント機能



コピー機能



スキャナ機能



ADF機能



ファックス機能



ネットワーク対応



自動両面



A4

用紙サイズ



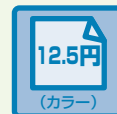
25枚

(モノクロ)



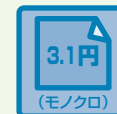
5枚

(カラー)



12.5円

(カラー)



3.1円

(モノクロ)

エプソンのLP-A500シリーズは、低価格でありながら多彩な機能を持つ複合機だ。印刷データの一部を受信した時点で印刷を開始することで印刷時間を高速化したり、Webページの印刷を1ページに収める機能などを搭載する。

FAX機能あり/ なしの2機種

エプソンという、カラリオ(Colorio)ブランドのインクジェットプリンタのメーカーという印象が強いが、もちろんページプリンタのラインナップもある。こちらはオフィリオ(Offirio)というブランド名で、その名からもわかる通りオフィス向けを強く意識した商品構成となっている(画面1)。また昨今、同社は複合機に注力しており、ローエンドモデルからハイエンドモデルまで幅広いラインナップを揃える。

今回紹介するLP-A500シリーズは、オフィリオシリーズの複合機の中でもっとも安価な機種。専用のラックに設置して床に置く大型タイプではなく、机の上に置いて使う省スペースタイプだ。製品としては、LP-A500とLP-A500F(写真1)の2機種があり、両者の違いはLP-A500FのみFAX機能とADF(Auto Document Feeder: 原稿自動送り装置)が付いている点にある。ADFは複数ページの原稿を連続読み取りするための装置で、複数ページの原稿をFAXで送信する場合や、スキ

ャナでスキャンする場合に必須といえる機構だ。ADFを搭載しないLP-A500では原稿を1枚1枚手でスキャンしないとならない。価格はともにオープンプライスだが、大手量販店ではLP-A500が11万1800円、LP-A500Fが12万9800円(編集部調べ)となっていた。

机の上で使う複合機

大きさはAP-A500が460(W)×467(D)×593(H)mmで重さ33.7kg、LP-A500Fが460(W)×467(D)×667(H)mmで重さ35.9kgとなっている。LP-A500FのほうがADFのぶんだけ74mm高い計算だ。いずれも30kgオーバーなので、机の上に置けるサイズ

とはいうものの、机にはそれなりの強度が必要になることに注意したい。ただ、LP-A500シリーズは省スペースを謳うだけあって、用紙の補給やトナーの入れ替え、紙詰まりの処理はすべてフロント側から行なえるようになっている。手狭なオフィスでも使いやすいように工夫されている点は評価できるだろう。

プリンタ機能

プリンタ機能はLP-A500、LP-A500Fともに機能に違いはない。カラ



画面1 エプソンの複合機オフィリオのWebサイト



写真1 ファックスとADFが付いたLP-A500F



モノクロでの印刷に対応する。プリントサイズはA4、B5、A5、ハガキ、封筒と不定形(90mm×110mm～220mm×355.6mm)で、用紙の種類は普通紙、上質紙、OHPなど一般的な用紙への印刷が可能だ。給紙トレイは標準では1つで、200枚の給紙容量を持つ。500枚までの給紙能力を持つオプションの増設用カセットユニット(税別4万円)を装着すれば、最大700枚を給紙できる。さらにこのクラスとしては珍しい両面印刷に対応しており、印刷コスト削減にも貢献する。

連続プリント速度は、モノクロで25枚/分、カラーで5枚/分と、このクラスのプリンタとしては標準的な速度といえよう。また、印刷時に最初に送られるイエロー(Y)のデータを受信した段階で印刷を開始する「フライングスタート印刷機能」を採用することで、印刷時間を短縮している。

印刷品質に関しては、トナー散りを抑え、くっきり鮮やかな印字を実現する「ラップ転写方式」を採用。さらに、細線の再現性が高いEAトナーの採用で、シャープで繊細な画像印刷とトナーの高い定着性を実現した。

ページ記述言語はエプソンが開発したESP/PageS Printing Systemを採用している。対応OSは、Windows 98/Me/2000/XP/Vista/Server 2003/Sever 2008、Mac OS 9.1.x/9.2.x/X 10.2.8以降となっているが、アヴァシス(<http://avasys.jp/>)。旧エプソンコーワ)が公開しているドライバを利用することで、Linuxからも出力できる。なお、内蔵メモリは128MBだが、最大576MBまで増設可能だ。

内蔵フォントやほかのプリンタのエミュレーション機能は持っていないが、WindowsやMac OS Xを使うのであれば困ることはないだろう。OS上で利用できるTrueTypeフォントとして、正楷書体M、行書体M、教科書体M、丸ゴシック体M、太角ゴシック体B、太明朝体B、太丸ゴシック体B、太行書体B、OCR-B、EAN-128の10書体が標準添付している(OCR-BはMac OSには対応していない)。

多彩なプリント機能

プリンタドライバによる多彩な機能も、LP-A500シリーズの特徴だ。まず、う

れしいのが「EPSON Web-To-Page」機能だ(図1)。これは、Webページを用紙幅に収まるように自動的に縮小して印刷するもの。Webページを用紙サイズにきちんと納めて印刷するのはなかなか難しい。この機能を使えば、プレビューをいちいちチェックして調整する手間やミスプリントを大幅に減らせるだろう。

また、出力イメージを縮小して1ページに複数のページを印刷する「割付印刷」や、印刷物を綴じて製本できるようにする「製本印刷」もサポートしている。割付印刷では、2ページぶんを1枚または、4ページぶんを1枚に割り付けられる(図2)。一方、製本印刷では中綴じと平綴じに対応する。

このほか、用紙サイズを指定するだけで縮小/拡大できる「フィットページ印刷」、ユーザー名や日付などを用紙の上部や下部に挿入する「ヘッダー/フッター機能」、「マル秘」、「重要」といったマークを文書に重ねて印刷する「スタンプマーク機能」もある。スタンプマークはオリジナルのものを作成できるので、さまざまな用途に応用できるだろう。

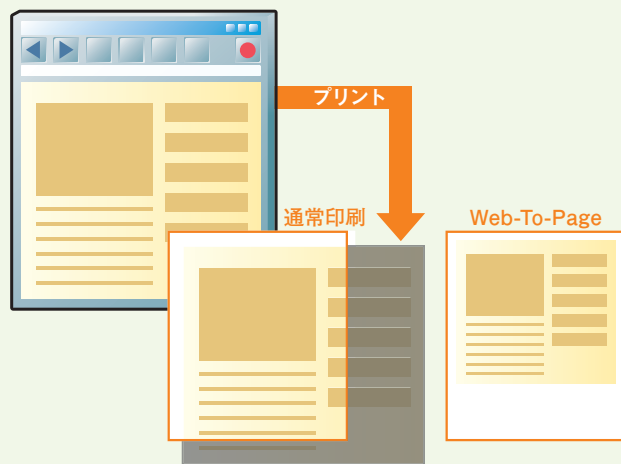


図1 Webページの印刷を用紙幅に納めるEPSON Web-To-Page機能

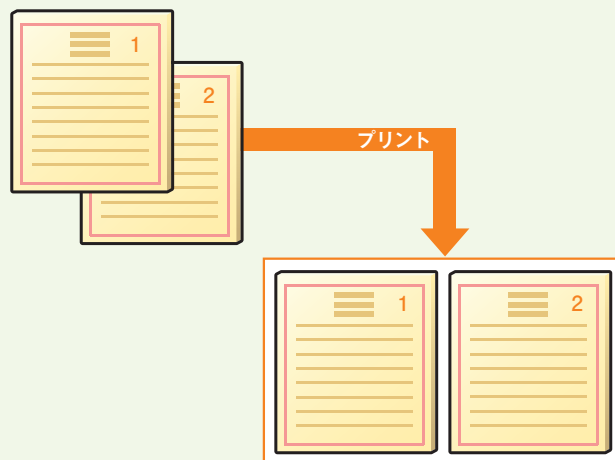


図2 1ページに複数のページを印刷する割付印刷